

(1991.3.22).

(2) ISO/TR 9769 (分析方法概要) の 1991 年版 (第 3 版)

原稿を中央事務局に送付し受理された(1991.3.25).

4. TC 67/SC 5 (油井管) 関係

(1) TC 67/SC 5 Membership の登録

ブラジルより P メンバー, イランより O メンバーとしての登録があり, 3 月末現在, P メンバー 10 か国, O メンバー 6 か国となった.

(2) TC 67/SC 5 の運営について

第 3 回 TC 67/SC 5 諮問部会 (3 月 20 日開催) において下記の方針を決定した.

① API Spec 5CT, 5D の ISO 化は TC 67/SC 5 自身において推進し, Working group は設置しない.

その他の API 推薦方法, API プレテンは上記作業完了時に方針を考える.

② API Spec 5CT, 5D の ISO 化の技術的検討は終了し, 4 月中旬を目標に Document の作成を考える.

③ Liaison は TC 5/SC 1, TC 17, TC 135, TC 164 及び API との間にて考えることにする.

5. 国際会議 (向こう 3 か月間の予定)

(1) TC 17/SC 19 (鋼管)

1991 年 6 月 5~7 日, ミラノ

(2) TC 17/SC 4 (特殊鋼)

1991 年 6 月 16~21 日, デュッセルドルフ

(3) TC 67/SC 5 (油井管)

1991 年 6 月 4 日, サンディエゴ

☆☆☆☆☆☆☆☆

//////////////////////////////////// 原稿募集 ////////////////////////////////////// 「鉄と鋼」特集号 //////////////////////////////////////

製鉄プロセスにおける現象とモデル化

原稿締切日 平成 3 年 11 月 8 日 (金) 締切日厳守

平成 4 年 7 月号 (第 78 年第 7 号) に上記特集号を企画しております. ここ数年, 国内の好景気に支えられ, 我が国の粗鋼生産量も 1 億 t を超える高生産が続いております. しかし, 一方では, 劣質資源の活用, 省エネルギーも含めた CO₂ 削減技術等, 将来型プロセスの開発に期待がよせられています.

最近の製鉄プロセスにおける研究状況を概観しますと, 原料分野においては, 焼結機操業の歩留り向上, 低品質原料の使用可能な焼結法や新塊成化法の開発, コークスの分野では, 乾留反応の制御法, 一般炭の使用技術, 高炉においては, 新装入物分布制御法, 微粉炭多量吹込み, AI や数学的モデルによる操業管理などに長足の進歩がみられます. また, 基礎的研究としては, シンターケーキ構造の研究, 高炉下部の移動現象論的研究, 新プロセスに関連して, 熔融還元法や酸素高炉法, 成型炭製造技術など大型のプロセス開発の研究も実施されています.

本特集号においては原料, コークス, 高炉製鉄法, ならびに, 開発が進められている将来の製鉄技術に関連して基礎科学的, および, 応用技術的研究を幅広く募集いたします. 論文等多数の御投稿をお待ちしております.

1. 原稿締切日 平成 3 年 11 月 8 日 (金)

2. 発行 「鉄と鋼」 Vol. 78 No. 7 (平成 4 年 7 月号)

3. 原稿枚数 論文刷り上がり 8 ページ以内

(表, 図, 写真を含めて本会原稿用紙 40 枚以内)

(注) ・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆して下さい.

・投稿された論文は和文会誌分科会において審査されます.

4. 問合せ・原稿送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

(社)日本鉄鋼協会 編集・業務室 和文誌特集号係 (担当: 坂井) 電話 03-3279-6021 (代)

(注) 投稿時, 原稿表紙に「製鉄特集号」と朱書して下さい.